

ふるさと上越

No. 13

2002年7月10日発行

●発行
ふるさと上越ネットワーク事務局（上越市総務企画部 企画課内）
〒943-8601
新潟県上越市木田1-1-3
TEL. 025-526-5111 FAX. 025-526-6111
E-mail: j-net@ml.city.joetsu.niigata.jp

ネットワーク

この情報誌は

- ふるさと上越が大好き!
- ふるさと上越との交流を深めたい!
- ふるさと上越にゆかりのある人
たちと交流の輪を広げたい!
- ふるさと上越の発展の役に立ちたい!
...そんな、あなたにお届けしています

contents

平成14年度ふるさと上越ネットワーク総会開催	1
報告ふるさと上越ネットワーク総会	2, 3
アトラクションと懇親会	4
平成14年度事業内容	5
ふるさと上越ネットワークのあゆみ	6
ふるさと交流会	7
事務局からのお知らせ・編集後記・おねがい	8

【情報をお待ちしています】 TEL.025-526-5111 (Jネット事務局)

平成14年度

ふるさと上越ネットワーク総会開催

5月25日(土) アルカディア市ヶ谷(千代田区九段北)



▲ふるさと上越ネットワーク総会会場風景

5月25日、アルカディア市ヶ谷(東京都千代田区九段北)において、会員約一〇〇名が参加し、平成14年度ふるさと上越ネットワーク総会が開かれました。総会では、太田会長の挨拶、(次頁に詳細を掲載)平成13年度事業報告、決算報告、平成14年度事業計画、予算について審議され、役員の一部改選を含め、全ての議案が原案通り承認されました。引き続き行われた意見交換では、活発な意見が出されました。

総会

総会は、午後4時に太田会長が議長席につき以下の議題について審議されました。

第一号議案 平成13年度事業報告
第二号議案 平成13年度決算報告

(同 監査報告(水嶋監事))

第三号議案 平成14年度事業計画(案)

第四号議案 平成14年度予算(案)

第五号議案 規約改正

第六号議案 役員交替・退任審議の結果、全案件が満場一致で承認されました。

その後、予定時間を超過しての活発な意見交換が行われました。

アトラクション

総会終了後、同会場にてアトラクションとして、ふるさと上越落語会と銘うち、上越市出身の落語家真打三遊亭白鳥師匠から古典落語の「親子酒」を話していただきました。

懇親会

会場を隣りに移し、懇親会が催されました。

今井副会長の挨拶のあと、野口相談役の発声で乾杯となり、懇親会に入りました。

地元のお酒、ワイン、笹寿司、丸なすなど沢山の料理を味わいながらの楽しいひとときが過ぎました。



報告 ふるさと上越ネットワーク総会

●太田会長のあいさつ

□発足から6年目

このふるさと上越ネットワークも平成9年発足以来、満5年を経過いたしました。6年目を迎えることになった訳でございます。この間上越市並びに会員の皆様方の協力により内容も充実、発展してきたわけでございます。

この中で一方世の中を見てみますと、承知の通り政治経済などあらゆる面で構造改革が求められまして、長引く不況の中から一日も早く脱却することを願いながら国をあげて頑張っている状況でございます。

このような時々は、ふるさと上越を心のよりどころとされる会員の皆様方が励まされ、あるいは知恵を出しあって助けあっていくことが大事なことではなからうかと存じております。

（承知の通り昨年11月、上越市では木浦新市長が就任されました。上越市も時代の流れに対応して、組織全般についての改革を進められておるといわれています。これにもなまじまして「ネット」の事務局として長い間お世話になりました上越市の東京事務所が閉鎖されるということとなり、「ネット」の事務局としましては上越市役所本庁と「ネット」運営委員会東京事務局がそれぞれ従来の事務局業務を分担するということになった訳でございます。この件につきましては、「ネット」だよりの3月号でお知らせしてある所でございます。自主的に「ネット」としても事務局業務の一部を分担するという時代の要請に応え、今後「ネット」を会員の皆さんにとってより良い会とするように頑張りたいと思いますのでよろしくご支援、ご協力をお願いしたいと思います。

□会員の増強を

また「ネット」発展につきましては会員の増強とい

うことが一番大事な事でございますが、従来なかなか目標を達成できず、会員の数が低迷してあるわけでございますが、昨年の総会においてもこの席でお願いいたしておりましたが、誠に恐縮ではございますが、一人でも多く入会希望の方をご紹介いただいて皆さんのお仲間を増やして頂きたい。これがやはり「ネット」の発展のために目に見えて大事なことでないかと存じております。

□経済環境も好転

話は変わりますが、最近上越へ参りますと、例えば直江津駅の周辺の道路が立派になったということ、あるいはお城の極楽橋が新しくできた。そういった新しいものが非常に目につくようになっておるわけでございます。誠に喜ばしいことだと思えますが、直江津港の中でも火力発電所用地の埋め立ても始まりまして、有間川地区からの土を運ぶ船が一日に何艘も直江津との間を往來しているというような状況でございます。

5月の初めにこの様子を見に行ったのでございますが、ちょうど関山と二本木の間に妙高山を見ましたら雪形の跳ね馬が非常に生き生きとして見えたわけでございます。（承知の通り雪形というのは春の雪融けの山の黒い地肌と残雪でできる模様であります。その模様は見る場所、あるいはその時の天気、あるいは見る人の気持ちでだいぶ馬の格好が個人的に変わってくると言われております。今年の干支にちなみまして、良い跳ね馬で景気が回復すればいいかなと思って願って見えたのでございますが、なかなか躍動的に見えたのでございます。

先日、景気の底入れ宣言も出されております。経済環境も徐々に好転してきておるといふ状況で一抹の明るさが見えてきた状況でございます。皆様共々頑張ってくださいと思っています。

最後になりましたが、全国でも、「ネット」という組織はまれな組織でございます。それを更に発展させまして、そして会員の皆様方の第二のふるさと全国各地と上越を結ぶ絆を更に強めていくということに尽力を会員の皆様方にお願いしたいと存じますが、あわせてご参加の皆様方の益々の健康と活躍を祈念いたしまして簡単でございますが開会のご挨拶にさせていただきます。どうもありがとうございます。（拍手）



●意見交換(概要)

会員 会員の減少について、この一年で約100人減っているとのことだが、再度更新していただけなくなった理由を聞いてみてはどうか。なぜ継続されないのか、こんなことをすれば継続してもよいという意見がでてるかもしれない。

事務局 会員の皆さんのために照会をさせていただいたことがある。その時には年会費の納入が複雑、「

ネット」の活動と直接関わりあがない、身近に感じられないなどの意見があった。そこで複数年会費導入したり、より「ネット」の活動を充実するなど取り組んできた。しかし結果として前年に比べ100人以上の減員となり、事務局としても一度原因がどこにあるか、またどうすれば継続的に会員になっていただけるか等についても会員の皆さまのお声をお聞きする機会を作りながら、対策を考えていきたい。

太田会長 会員数の問題については同じような他の会でも景気が悪いこの時期は会員が減る。三千円の会費だがやはり辞める方が多く、入会する方が少ない。毎月「ネット」より、広報が送られてきて三千円は相場的にはとても安い。ただ不況が長引くと三千円という金額は一万円貯金しないと三千円の利子はつかない。三千円が目上がある。そこで継続会員になると毎年百円安くなるのはいい金利であり、そういう意味で継続支払で入会するとよいので、ぜひ複数年会員になっていただきたい。

会員 新市長の公約上東京事務所を無くしたと聞いたのだが、市長といえども「ネット」に対して反対はなさってないと思うので、今度の会報に「ネット」に対する抱負や希望など書いていただければありがたい。そしてみんなに元気を与えていただきたいと思う。

三上雄司総務企画部長 ただいまのご意見を市長に伝えて、そのような方向で進めていきたい。実は市長はこの場で皆さまと意見交換をさせていただきたいという気持ちでいたのだが、他の予定と重なってしまい欠席をさせていただいた。

太田会長 新しい市長と何回か会ってお話をしながら、「ネット」の役割を充分ご理解いただいている。全国の上越を思う方の会は他の町では珍しい組織

で、上越と皆さんがお住まいの北海道から沖縄までの第二のふるさとへの絆としての役割がある。もう一つは外から見た上越に対する支援という役割がある。このような役割を充分ご理解いただいている。今年度の予算の説明でもあつたように非常に地方自治体の財政が苦しいが、Jネットに対する交付金の削減率は非常に低いと思う。市長には頑張ってくださいと伝えていただきたい。

会員 GWに帰省し、久しぶりに生まれ育った本町一丁目の商店街をぶらりとしたが、昔あつた店がずいぶん閉められていて、非常に寂しい思いをしなから歩いた。駐車場の問題や、車社会ですから郊外型という問題もあると思うが、市としてはどう考えているのか。

三上部長 私も高田に住んでいて時々買い物をして商店街へ行き窓越しに通りをみると人影が極めて少ない。さてどうしたのかという感じを受ける。そういった中で大変残念なことだが、高田駅前の長崎屋という大手スーパーが撤退をした。これは高田だけではなく直江津でも中心商店街の地盤沈下というものが特に最近著しいものになつていて、そういった中で当然行政の力だけでくい止めるというのはなかなか難しい問題であるが、今商工会議所の関係者と力をあわせながら何か方策がないか、当然地元商店街の皆さんと力をあわせ、少しでもくい止め、回復するたてがないか考えながら暗中模索している。なかなかこの社会、経済情勢の中ではクリーンシフトのような対策は実はこつじきれないというのが現状。心配をする気持ちは地元にいるものもまったく同じであるので関係者とともに行政としても力いっぱい支援をしていきたいし、取り組みもしている。

会員 3年へら前にJネットたよりに盛んに入つてしたが、上越インター近くの小猿屋の新しい土地の販売では、Jタウンの人が移り住む美態はどのへらいあつたのか、まちづくりがちゃんとできて

三上部長 横曽根小猿屋地区にアーバンビレッジという名前をつけている。農村地帯にこれまでの団地というものよりも少しゆとりを持った区画の住宅地を形成しようとして取り組んできた。大きい所で一区画三〇〇坪、三〇〇坪ですと土地の費用がそれなりの値段になるのでその半分の一五〇坪という区画も作りながら分譲した。全部で52区画のうち1・2区画は少し遅れたが完売した。Jネット会員の皆様からも4区画お買い求めいただいている。今後第2号・3号地区をどのような形で進めていくか検討しているの、ご案内を差し上げたい。

事務局 上越市のまちづくりについては皆様の関心も高いと思う。このようなアーバンビレッジは、先ほど収入役の挨拶にもありましたように、いつでも皆様がお戻りいただけるように受けとめることができるまちづくりを進めていきたい。今、具体的に進んでいるのは新幹線の建設。昨年4月に長野、富山間の工事について正式に認可がおりて着工した。まだ上越市内では目にするにはできないが、隣の板倉町ではすでに橋脚ができていてトンネルの工事も進んでいる。ただ今の予定でいくと平成13年から12年後ということで、完成・開業までは少し時間がかかる。地域としては皆様との距離を縮めるといふ意味も含めて運動を展開していきたい。また合併についても現在地域の方で一生懸命検討している。具体的には上越市周辺10市町村で、皆様が上越にお戻りになって合併してどのようになつていくのかお感じにしたい。思ふところもあつたと思う。是非これからのふるさとをまちづくりに皆様のお知恵をお寄せいただければと思



ている。
会員 住宅を造るのは結構で確かに良いことだと思ふ。ただこれからの食料難、10〜15年先の食料事情は随分違つてくると思う。はたして広大な田んぼの中に土地を埋め立ててしまつて20年先に対応できるのか。

三上部長 なかなか難しい質問ですが、市では多くの市民の皆さんの参画を得て長期のまちづくりビジョン「プラン」を策定している。これは地方自治法に定められた市町村のまちづくり計画・総合計画のバックボーンになるもの。その中で上越市としてどうやってまちづくりを進めていくのか。当然農地があり、都市計画区域があり、工業・商業地帯の立地をどう工夫していくのか、それがベースになつている。市民の皆さんや専門家によつてランドデザインができあがつている。それにそつて市がまちづくりをしている。当然おつしやる通り農地をつぶして宅地にしていく、不用意に工業団地にしていくという

わけではない。上越市は昔ながらのおいしい新潟米の主要な産地である。上越市の基幹産業の要のひとつである。市でも農業政策には力を入れている。一方で住宅地域を生み出していくことも必要、バランスを考えて取り組んでいる。
会員 ビジョンを進めていくにあつて、こういう目的のために、人口はどのくらい増減するからか、当然産業の変換もあるだろうし、Jタウンなるからというところもある程度おまかなひビジョンを出して欲しい。

三上部長 今年から第5次総合計画の見直しの時期に入つている。今年度同じように市民の皆さんに参画してもらい第5次総合計画の策定に向けて動き出している。今ほどの意見をふまえながら上越市の将来像・方向・羅針盤を作りたい。

会員 細かい話だが、この間田舎へ帰り、百貨店の食堂へ行つた。我々の時代と比べると米が非常にまじい。人の舌はたますわけにはいかない。それが人から人へ伝わつていく。5・6年前田舎へ行つたので米を買つてきたが、案外にまじい。偶然悪い米にあつたのかもしれないが、そういう所に目配りしてもらう方法はないか。

三上部長 私も農家、おしやる通り米のつくりかたが昔と全く変わった。はさに掛けて天日で干してということではなくて、私自身も委託して作つてもらつているが、勤めをしながら片手間に農業をやつているのが現状。全般的に米の質が下がつてきているところがあるかもしれない。もう一つは流通の問題で、果たして地元産のお米をその時に召し上がったのかわからない。しかし市や農協関係機関も地産地消を進めていて、上越市内で美味しい「コンヒカリ」を作つて市内の皆さんにまず提供しようという取り組みを進めている。もう一点は米の作付けの時期が、勤め人が多いため5月の連休に田植えをするため米の生育期が極めて高温の時期になり、米の味を落としてしまつて今年から農協関係が対応し、田植えの時期を遅らせた。上越市内の大半の農家はそのような取り組みをした。その結果味が良くなるかはもう少し先にならないとわからないが、このような取り組みもしている。

会員(米の専門家) 乾燥や早く植えた稲はよくないという話は全く該当しない。むしろ早く植えて生育期間を長くして良い米を穫るといふのが基本。「コンヒカリ」は中手の早稲です。早稲は以外と味が悪い。奥手は味が良い。ですから昔の農家は美味しい奥手の米を自分の保有米としてつてお

く。上越市の品種はコシヒカリオンリーになっており、機械化にもなった栽培がおこなわれている。機械乾燥は「はぎ掛乾燥」と同じくらい良いので機械乾燥の米の味が悪いとは言えないと思う。

上越市のお米が安くて美味しく東京で手に入れたいと思ってると思う。

会員 私は大日で兄が米を作っているが、今年度の米は特Aで二〇〇〇年度はAで一九九九年は特Aです。産地直送の兄が作ったお米は非常に美味しい。東京にくるとどうしてもフレンドになってしまうので、湯沢の辺で作ったコシヒカリよりもうちのコシヒカリの方が美味しいと東京にいる人に言っていた。高田の百貨店で食べた米はもしかしたら地元のコシヒカリではないかと思う。上越の米は美味しいと東京の人が言っている。

●伊藤保収入役挨拶

何人かの方から貴重なご意見をいただきました。市長が新しく変わったために東京事務所を閉鎖したり、あるいはJネットへの交付金も50万円減額ということで、熱の入れ方が足りないかと危惧されていると私は受けとめている。実は木浦市長は職員以上に皆さんのことを考えている。しかしなかなかふところ具合が許さず苦しい台所をご理解いただきました。また高田を例にとりますと、高田の駅をお降りるとあそこにも店があつて、本町のここに丸庄があつて、ここにもやま江さんがあつて、品川があつたというそういう核になる店が全部無くなつてしまつた。そうすると異なつた町へ来たような感じで、特に本町通りの様な空洞化が全国的に進んでいる。高田だけではなく直江津も同じで、別名シャッター通りを言われるくらいシャッターが降りている店が多い。市も部長が答えたことにつぎるのだが、漫然と手をこまねているわけではなく商工振興のために融資やまちづくりを積極的にやり、貸店舗を低価格で貸し出したり、色々なことをやっている。歩行者天国等もやってみたが、なかなか功を奏すというところまでいっていない。皆さま方から他の市で住まいになってこんなことをやってくつて成功しているという事例がありましたら、教えていただきたい。

またお米の話も専門家があらわれて、なかなか口はばかられるが、上越に来られてお米がまずいという話は初めて聞いた。よほど流通の端境期の時ではないかと思う。地産地消ということで地元の農協の協力を得て市内の小中学校の学校給食に出させていたでている。それも一食分ずつ温めると配送の間にまぶくなるということで各学校でパン炊きで米をほくほくして美味しくしている。パンや麺類が子供に喜ばれるのだが、上越市内では米飯給食の人も高まってきている。都会で上越米を食べるとそれほどでもないというのは、米をこく水が美味くないと米の味も生きてこないというお話を料理の専門の方からお聞きしたことがある。そういう理由もあるのではないかとと思う。いすれにしろお話をいただいたことを市長に伝えると同時に、先ほど申し上げたように上げたように気持ちだけ温かく迎えるのではなくて、皆さんがお帰りになつた時に上越市や、残つた人間もこんなに頑張つてくれたという所を見せられたらと思つている。今日は本当にありがとうございました。

●太田会長の締め

つい話がおもしろくて、議長の本音ではもうとうへんに降りているはずなんです。つい長くなりまして、以上です。ありがとうございました。(拍手)



アトラクション
(ふるさと上越落語会)

三遊亭白鳥さん 演題「親子酒」
上越市出身の落語真打三遊亭白鳥さんから酒どころ新潟にふさわしい「親子酒」という古典落語をはなしていただきました。

プロフィール
昭和38年(1963)、上越市本町四丁目に生れる。生家は「藤田自転車店」を経営。
城南中学、高田高校、日本大学芸術学部文芸学科卒業。
高校時代はラグビー部、大学時代は空手部と童話絵本研究会に所属、落語と全く関係ない学生生活を送る。

昭和62年7月、三遊亭円丈に入門、二番目の弟子となり三遊亭にいがたの芸名をもらう。
平成2年3月二つ目に昇進。三遊亭新潟となる。
平成13年9月、真打に昇進。三遊亭白鳥となる。



懇親会

地酒、ワイン、笹寿司、丸茄子など地元の食材も用意されました。
例年好評の「謙信汁」の大鍋も会のなかばにして底が見えるほどの売れ行きでした。



おめでとうございます。恒例のふるさと抽選会が行なわれました。

★★★豪華抽選会賞品★★★

- ☆岩の原ワイン……………5人
 - ☆雁木通り米5kg……………2名
 - ☆くわどり湯ったり村宿泊券……………2人
 - ☆くわどり湯ったり村利用券……………1人
 - ☆正善寺工房オリジナル商品……………1名
 - ☆アルビレックス新潟マスコット……………3名
- ★出席者全員へのおみやげ★
- ☆カレー(エスピーガーリック食品株)様より)
 - ☆こんぶ野沢菜漬(JAえちこ)上越様より)
 - ☆たくあん(正善寺工房)

平成14年度事業内容

◆ 会員募集事業

- 会員目標 1,000人
- (1) 平成13年度会員の継続加入
 - (2) 新規会員の募集
 - (3) 複数年会員の募集
 - (4) 会員名簿の発行

◆ 広報事業

- (1) 「広報じょうえつ」の配布(月1回)
- (2) 「Jネットだより」の発行(月1回)
- (3) 「Jネット会報」の発行(年2回)
- (4) 「ふるさとカレンダー」の発行(12月)
- (5) ホームページの充実とリンクの拡大

◆ 交流事業

- (1) 第6回ふるさと交流(探訪)会
- (1) 時期 4月13日(土)～14日(日)
- (2) 参加者 29人
- (3) 内容 長野善光寺～Jネット記念樹～
高田城址夜桜～桑取湯～たり村
～朝市～ヨードル金谷
- (2) 「桜の木」のオーナー制度の実施

◆ 総会等開催事業

- (1) 総会 5月25日(土)アルカディア市ヶ谷
- (2) 運営委員会 毎月第2水曜日
(株)社会システム研究所内
- (3) 理事会 第1回総会開催日(5月25日)
第2回平成15年1月

◆ Jネットサロンの開催

- (1) 東京地区会場 毎月第2水曜日
運営委員会事務局にて参加費1,000円
- (2) 地区別会場
地区別自主開催の支援(1人あたり1,000円補助)

◆ ふるさとネットワーク支援 市の各種委員会への参画

◆ 役員の変替

関根咲子理事→長谷川千代理事(高田高女・北城高校同総会東京支部長)
相澤吉久理事→村田宏行理事(上越青年会議所理事長)

◆ 役員の変替

宮崎八百一郎相談役(高田高校校友会東京支部顧問)

平成14年度 ふるさと上越ネットワーク予算

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

■ 収 入

単位：円

科 目	13年度決算額	14年度予算額	差引増減	内 訳
会 費	3,024,000	3,272,600	248,600	・ 個人会員 @3,000×726人 @2,900×274人 ・ 特別賛助会員 @50,000×6団体
負 担 金	1,348,500	1,220,500	△128,000	・ 総会参加者 @5,000×100人 ・ ふるさと交流会参加者 565,500 ・ 桜の木オーナー @5,000×25人 ・ 特別賛助会員郵送物負担金 @10,000×3件
交 付 金	5,000,000	4,500,000	△500,000	・ 市交付金
繰 越 金	435,252	727,511	292,259	
雑 入	57,402	389	△57,013	
合 計	9,865,154	9,721,000	△144,154	

複数年会費 預り金	複数年会員 196人 (15年度以降)	873,430	収入に見込まず別会計として処理
--------------	---------------------	---------	-----------------

■ 支 出

単位：円

科 目	13年度決算額	14年度予算額	差引増減	内 訳
広 報 事 業	6,410,550	5,860,000	△550,550	
会員募集 事 業	181,891	900,000	718,109	・ 入会案内チラシほか印刷 150,000 ・ 会員募集案内DB作成委託 300,000 ・ 会員名簿印刷 350,000 ・ 郵送料ほか 100,000
広報事業	6,228,659	4,960,000	△1,268,659	・ 市広報購入 1,200,000 ・ 会報印刷 850,000 ・ 封筒ほか印刷 400,000 ・ ふるさとカレンダー購入 750,000 ・ 定期郵送物配達料 1,500,000 ・ その他 260,000
交 流 事 業	1,278,670	1,510,000	231,330	・ ふるさと交流会 810,000 ・ 桜の木オーナー事業 500,000 ・ Jネットサロン 200,000
総会等開催 事 務 費	1,187,588	1,250,000	62,412	・ 理事会、総会、懇親会
事務費	260,835	1,101,000	840,165	・ 消耗品費ほか 261,000 ・ Jネット運営委員会事務局費 840,000
合 計	9,137,643	9,721,000	583,357	

ふるさと上越ネットワークのあゆみ

- 平成9年度(会員数：個人897人)
- ・Jネット設立総会(平成9年7月30日)
- ・初代会長に佐久間昇(日本衛星放送(株)代表取締役社長)が就任
- ・第1回ふるさと交流会として「レルヒ祭」に参加(平成10年2月10、11日)



▲設立総会

- 平成10年度(会員数：個人946人、団体6)
- ・Jネットだよりの発行開始
- ・会員証の発行(特典は市の施設利用半額減免等)
- ・第2回ふるさと交流会として「観桜会」見学(平成11年4月10、11日)

- 平成11年度(会員数：個人1013人、団体8)
- ・新会長に太田四郎(中電興業株相談役)が就任
- ・第3回ふるさと交流会として「湯つたり村」で体験農園(平成11年10月2、3日)



▲ふるさと交流会(体験農園)

- ・FMJへの出演(会員によるJネットの広報PR)
- ・会員の交流を広げ、深めるため、Jネットサロンを開設(毎月第2水曜日：東京事務所)
- ・東京以外のJネットサロン
- ・東海地区で開催(平成11年12月3日)
- ・まちづくり支援として各種委員会へ参画
- ・上越市発足30周年記念事業等実行委員会
- ・優良田園住宅設計協議審査会
- ・上越市景観条例検討委員会など

- 平成12年度(会員数：個人1086人、団体6)
- ・第4回ふるさと交流会として「上越まつり」、ミレニアムイベント参加(平成12年7月28、29日)
- ・会員名簿発行(平成12年度版)
- ・全国の会員からのたよりを紹介するJネット通信員制度
- ・地区別Jネットサロンとして長野地区、近畿地区Jネットサロンを開催
- ・まちづくり支援として各種委員会へ参画
- ・上越市発足30周年記念事業等実行委員会ほか



▲地区別Jネットサロン(名古屋)

- 平成13年度(会員数：個人914人、団体7)
- ・第5回ふるさと交流会として、30周年記念事業
- ・小林古径邸見学、Jネット記念植樹(平成13年9月29、30日)
- ・「桜の木」のオーナー制度の実施
- ・東海地区Jネットサロン開催(10月13日)
- ・まちづくり支援として
- ・上越市発足30周年記念事業等実行委員会
- ・謙信公アカデミー評議会ほか



▲桜の木オーナー制度

ふるさと交流(探訪)会

○新宿西口を出発

4月13日(土) 快晴 10時に参加者29人を乗せた頭鉄バスは上越へ向けて観桜会の旅へと出発した。日本三夜景の高田公園での夜桜見物を楽しみに集まった一団である。しかし、今年(は超特急で北上した桜前線が4日には満開、6日(土)、7日(日)が最後の花見のチャンスであったとの連絡が来ている。つまり、花はもうないのである。すでに散った花を見に出かける不思議な旅が始まった。

○関越道から上信越道へ

バスは、関越道を快走し、藤岡より上野方面へ向かう。おさまみ、ビール、お茶を満載した車内は、散った桜の心配など関係なしに盛り上がりつつある。

○あんずの里で昼食

更埴市のあんずの里(あんずの花の下での昼食)という素晴らしい企画で会場へ。しかし、桜だけではなくあんずも既に散り、小さな実が風にゆれていた。ここでおさまみの釜飯で昼食。天気は良いし、バスにゆられたせいにお腹も空いた。なつかしい釜飯の美味を再確認しながら、春の陽射しの下で心地よいひとときを過ごした。



○善光寺まいり

昼食後、バスで移動し、善光寺へ。ここで上越市の関川さんと合流。善光



寺をお参りしようと思境内へ入ると、何と桜が満開である。花吹雪の中を進み、それぞれ神妙にお参りをすませた。

○松ヶ峯の桜

長野からは一路高田へ進むところであるが、添乗員の鈴木さんの指示で、高速を途中で出て、松ヶ峯へ向った。松ヶ峯の沿道の桜の木はまさに満開。素晴らしい景色に車内で歓声が上がる。(もう桜は十分だ。今夜は葉桜で十分だ...)。

○私の桜の木

バスは新装した県立中央病院の前にある新南町公園へ着く。あつた! あつた! という声があちこちで聞こえる。85本のオナー桜が公園の一角に並んでいる。ここには現在約200本の桜が植えられており、いずれ新たなお花見会場となるのは必定。南葉山、妙高山を仰ぎながら見る10年後の桜が楽しみです。

○高田城址公園

バスは少し遅れ気味で、高田城址公園へ到着。市の職員の方々が迎えてくれた。昨年植樹した「ネット」の桜の周りに



集まる。立派に成長し、沢山花をつけたらまで、また花びらが少し残っていた。

歓迎レセプションがあり、三上部長が挨拶された。本来は、桜の木の下で宴会の予定だったが、葉桜と天候が心配なことから、「湯つたり村」へ直行することになった。

○おなしみ湯つたり村

湯つたり村へ到着後、早速温泉へ。宴会は大広間である。いもの例だが、食きれないほどのご馳走である。今回は特に地元産品を使うものが多く、大満足であった。宴会がお開きになると、次は自然にカラオケ大会となった。



翌日は希望者が早起きして、素晴らしいブナ林を散策した。満開のカタクリの花が群生しており、目を楽しませられた。またまた残っている雪の下から「ふきのとう」が芽を出していた。



○四九市

今日は14日(日)。大町の四九市である。バスで、高田へ向い、知命堂の横へ下車。色々な食材が沢山売られている。全国では高山をはじめ、いろいろな朝市が有名であるが、この四九市もそれらには遜色ないと私は思う。もともとRしなければ...。タラの芽、竹の子、コンブ、ウド...。私も思わず色々買い込んでしまった。



○ヨーデル金合

スゲジュール最後の昼食は、恒例とも言うべきヨーデル金合である。食後、バスで一路東京へ向う。休日出動でおつき合いくれた市の職員の方々が、玄関でバスが見えなくなるまで手を振ってくれていた。(分ヨナラーまた、来年!)



桜の無い観桜会ではあったが、何故か満足した不思議な旅であった。旅そのものが不思議な魅力を持っているのかも知れない。皆様、本当にありがとうございました。(理事 和久井博(団長))



●記念撮影「ふるさと交流会」平成14年4月14日

事務局からのお知らせ

Jネット 名古屋サロン(第3回)開催日が決まりました。

昨年に続き、今年も名古屋地区でサロンが計画されました。地区別サロンは今年からは自主開催となりましたが、名古屋地区在住の皆様のご参加をお待ちしています。

- 日 時:平成14年9月7日(土)18時から
- 場 所:名古屋 Marriott アソシアホテル(JR名古屋駅ツインタワー) 15F コーヒーショップ パーゴラ(052-584-1101)
- 会 費:3,000円(当日会場にて)
- 連絡先:〒487-0006
愛知県春日井市石尾台6-10-12
尾原 勝利(TEL:0568-91-6676)
または、Jネット事務局(本庁)へ

皆様のお宅まで
ふるさとを
お伝えします。

講読料
575円(郵送料込)

月刊 **上越タイムス**
0120-17-4243

翌日、お宅に届きます。

上越を読む

月刊 **JACK LAND**
上越エリア情報誌 JACK LAND

TEL 025-524-4275 FAX 025-524-4451



創業明治23年
伝統の味
岩の原ワイン

～日本の本格的ワイン発祥の地～

株式会社 岩の原葡萄園

TEL 025-528-4002 新潟県上越市北方1223番地
URL <http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/>

会の運営に
ご協力いただいている
特別賛助会員です。

おかげさまで100周年
FUKUDA CORPORATION



株式会社 **福田組**
代表取締役社長 苅部 隆
営業本部長

東京本社
〒162-8411 東京都新宿区市谷本村町3-26
TEL 03-3269-4711 F AX 03-5261-5387

高田郵便局が
新しく生まれ変わりました。



新局

〒943-8799
上越市大手町3-21

高田郵便局
局長 桐生 重俊

上越市リフレッシュプロジェクト キーワードは
自然・食・健康・産出です

<p>スキー発祥地「金谷山」の ランドマークレストラン</p> <p>ヨーデル金谷</p> <p>連続都市オーストリアのヨーロッパ テイストいっぱい、「カジュアルブ イニング」スタイルのレストラン。 上越高田ICそば TEL (025)523-0681</p>	<p>「特産品再発見」と、 加工体験</p> <p>正善寺工房</p> <p>・上越市の特産品加工販売 ・加工体験施設の貸出と イベントの開催 TEL (025)523-0621</p>
---	--

フナの森に抱かれた、静寂の温泉・宿泊エリア

上越の温泉 かわどり湯たり村

・温泉 料金/大人500円 小学生300円
・宿泊 1泊2食/大人 8,000円～
小学生 5,000円～

TEL (025)541-2611 FAX (025)541-2616

管理/運営
リフレ上越山里振興株式会社

JAえちこ上越

「だれもが安心して暮らせる地域づくり」それが「JAえちこ上越」の願いです。

豊かな自然と、皆様の安全な農業を「守り続けるための私たちは誇りと情熱をこめて取り組んでいます。」

地域のため 皆様のため ぐらし応援します

JAえちこ上越農業協同組合
〒943-0817 新潟県上越市藤巻5番30号
TEL 025-527-2001 FAX 025-527-2009
会長理事 柳澤 武治

編集後記

「ふるさと上越ネットワーク」も上越市の東京事務局が閉鎖になって、運営状況にも変化が必要になっていきます。当面は費用面での改善がポイントとなると考えられます。そこで、これまでカラーで年2回発行していた会報を一色刷りにし、「1」は総会の報告を中心とし、「もう1」は会員の声を多くとり入れた会報にすることが運営委員会で決まりました。今号の会報は「総会報告編」ということになりました。

また、一色の印刷でレイアウトも運営委員がパソコンで自ら行いました。このため、経費的には安くできましたが、出来ばえについてはやや心配しているところでもあります。

初めての試みですので、見苦しい点等があれば、ご容赦いただきたい。次号は会員の投稿を中心にまとめるので、皆様の投稿を沢山お待ちしています。

(和久井)

おねがい

■ 会員募集のお知らせ

Jネットも6年目を迎え、これからますます充実した活動を行うためにも、より多くの方にネットワークに参加していただく必要があります。是非、皆さんのご親戚やご友人にJネットをご紹介ください。

■ お届け先が変更になった方はお知らせください

転居により住所が変更になった場合は、新住所を事務局までお知らせください。(電話、FAX、E-mailでも結構です。)

■ 皆さんの声をお聞かせください

ふるさとに寄せる思いや思いなどで皆さんからのお便りをお待ちしています。また、Jネットの運営に対するご意見ご要望もあわせて募集しています。

■ Jネット桜の木オーナー制度事業参加者募集の予告

昨年度事業で好評だった、桜の木オーナー制度事業を本年度も実施します。

貴方も、上越市のさくらのオーナーになりませんか。根づきのよい今秋に募集します。

- 募集日時 平成14年10月頃
- 募集人数 50名
- 費用 5,000円/1本
- 植栽場所 新南公園(県立中央病院南側)